

令和7年度 第4回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和8年2月19日(木) 18:30~19:30
- 2 会 場 帯広市役所 10階 第5B会議室
- 3 出席委員 山田 知史、伊東 健太郎、斉藤 準、矢野 充、鳴海 亮、津田 祥平、
今野 敏幸、藤森 元恵、岸田 智子、青田 善弘、久保田 博己、
高山 直保、三浦 真希子、下浦 秀樹、佐藤 康則
(以上15名、敬称略)
- 4 事務局 生涯学習部長 村木 章純、生涯学習文化課課長 米通 朋樹、生涯学習文化課課長補佐 金須 健裕、生涯学習文化課生涯学習係主任 加藤 主夫、
生涯学習文化課生涯学習係主任補 濱 しおり
(以上5名)
- 5 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶 帯広市教育委員会 生涯学習部長 村木 章純
 - (3) 議事
 - ①協議事項 今期の調査・研究について
 - ②報告事項 会議等出席報告
 - (4) 閉会
- 6 議事要旨
 - (1) 協議事項 今期の調査・研究について
 - ① 概要
 - ・本会議では、前回会議でのグループワークの取り組みを基に事務局で作成したテーマ案を委員に提示し、今期の調査・研究テーマを「若者と地域をつなぐ社会教育の役割」に決定した。その後、今後の会議で調査・研究をしてみたい団体や活動についての意見交換を行った。
 - ・次回会議では委員からの意見を参考に、事務局で調査・研究先を選定する。
 - ② 意見交換の手法
 - ・委員を3つのグループに分けて実施。
 - ・今期の調査・研究テーマである「若者と地域をつなぐ社会教育の役割」に関連して3つの小テーマ (①学校の授業や学生サークルと連携する方法を考える ②どのように情報発信をしていけばよいのかを考える ③どのようなサポート

方法があるのかを考える)を設定し、それらに沿った話を聞ける団体や活動であるかを意識しながら意見交換を行った。

- ・最後に各グループで出た話題を全体に向けて発表し、委員同士で共有した。

③ 各グループの発表

○グループ1

- ・前提として調査する若者の年齢層のターゲットをどこにもっていくかを決めたらいいと思う。
- ・企業とか団体で、点で活動されている方は多くいる。そういった方々を巻き込んでいけると良い。ハブとなるものがあつたらいいと思う。
- ・社会教育に貢献したいという企業が増えている。学校では探求学習のプログラムが組み込まれていると聞いたが、そうした機会を活用できるように、企業をリスト化したりすると良いと思う。職業体験をしたいという要望があつたときに、企業側も協力しやすいのではないか。
- ・SNS 関連だと我々大人がやるよりも、若者発信、若者自身がやっていった方が良いのではという意見があつた。実際に若者に話を聞いて参考にしたい。
- ・「若者議会」という話が出た。若者自身で活動しているサークルやグループに話を聞けたりするといいんじゃないかという意見があつた。

○グループ2

- ・学校の授業等とどう繋げられるかを考えた時に具体的な意見が出てきた。
- ・市内中学校には、さけのふ化の授業をやっている学校や、夏休みや冬休みに「大人が子どもに教える、中学生が小学生に教える」という取り組みをして、世代間でつながりができている学校がある。また、中学生の学生ボランティアがある学校もあると聞くので、そこでどういった活動をしているのか等を、活動している本人の声が聞けたらいいと思うという意見があつた。
- ・総じて思うのが、前のグループでも話があつたとおり点と点がつながっていないのではないかということ。また、地域ごとの事例を知るのが大切だと思う。
- ・若者のニーズを大人がどう拾い上げるかというのが難しいと感じる。トップダウンではなくボトムアップ。子どもたちの想いを聞かないことにはわからない。
- ・今の子の集中力が続く時間は15分と言われているようで、SNSのショート動画などはニーズに合っているようだ。大人とはその辺の意識が違うので、大人の意識改革も大切だと思った。

○グループ3

- ・中学生のボランティア活動については運営が難しい。広くボランティアを募る形で協働できればという話があつた。

- ・短大の取り組みで高齢者と学生が共同生活をし、一緒に住むというのがある。そこで高齢者と若者のふれあいが生まれている。また、学生はなかなか外に出たがらない人が多いので、授業で半ば強制的に地域とふれあってもらっている。地域をどういう風によくしていくかを学生の若い目線で考え、町に提言書を出す等もしている。その他にも学生が小学生に性教育の授業をする取り組みで、地域と関わる等もある。
- ・大学生がボランティアで除雪をしていることの話や、広小路マーケットでも若い人に参加してもらいたいと思っている、という話があった。
- ・若者の心をつかむのが上手な企業があったりする。SNSの使い方も上手。そういった企業の取り組みが参考になるかと思う。

(2) 報告事項

ア. 会議等出席報告

研修会への出席について報告。

〈意見・質問なし〉

以上